

1. 表題： Sophia University X Kushiro Wetlands: A Ten-Day Field-Based Course from Students' Perspective

2. 氏名： 落合 ゆり（上智大学国際教養学部）
管 由英佳（上智大学国際教養学部）

3. 要旨本文：

ヒューマンエコロジーリバーズは、上智大学国際教養学部の学生が北海道で環境問題について学ぶための授業です。2014年度から始まったこの授業では、東南アジアからの留学生も含めた国際色豊かな生徒達15名ほどで、様々な団体や企業を訪れ、釧路湿原の現状について学び考察します。2014年度と2015年度の授業を通してどのような内容に触れ、どのような体験をしてきたのかを、実際に授業に参加した生徒の立場から紹介したいと思います。

1. 釧路湿原について：

日本最大の湿原とされている釧路湿原は昭和55年度をもって、ラムサール条約登録湿地となりました。今となっては世界的にも有名な湿原として自然保護活動が盛んに行われていますが、以前はそうではありませんでした。私達は特別な許可を頂き、湿原内を見学し、今までに釧路で行われてきた事業など多くを学ぶことができました。

2. 釧路の生き物

ここでは、私たちが授業を通して知ることができた釧路湿原の多種多様な生き物とその生き物たちが向き合っている現状について紹介したいと思います。日本のシンボリック的存在でもある丹頂鶴や鮭など北海道を代表する生き物たちについて解説します。

3. ワンダグリンダ

ワンダグリンダとは釧路自然再生協議会が進めるプロジェクトで、地域住民を交えた自然再生を行うため、毎年行われている様々な取組の事を指します。ヒューマンエコロジーリバーズでは、一方的に釧路について教えて頂くだけでなく、このプロジェクトに参加し、発案する場を設けて頂くことで、問題の解決策などを私たち生徒からも提案しました。ここでは、ユニークな回答も含め、その一部を紹介します。

4. 経験を通して